



スバル、 次の50年に向かって

富士重工業株式会社 代表取締役社長

森 郁夫

スバルは今年、「スバル360」から数えて、スバル発売50周年という記念すべき年を迎えました。この50年間を支えていただきましたお客様、また応援していただいた皆様に感謝をしたいと思います。

50周年を迎えたスバルは本年、国内市場に多人数乗車「エクシーガ」を新規車種として発売しました。「エクシーガ」は「7シーター パノラマ ツーリング」をコンセプトに、乗員すべてが快適に移動できる居住空間と、スバルならではの気持ちのよい走りを提供する新しい多人数乗車像を提案し、「スバル360」が家族の夢を実現したように、新しい時代のファミリーカーとして多くの方々からご共感いただいております。

また、海外市場ではインプレッサ、フォレスターといった新型車が、スバルの主要市場である欧米豪はもちろん

のこと、ロシアや中国といった自動車新興国でも高い評価を得、大きく台数を伸ばしております。

これら最近投入した商品がおかげさまで良い評価をいただいているのは、昨年発表した「新中期経営計画」の中で掲げたスバルのクルマづくりの方向性、「快適・信頼の新しい走り」と地球環境との融合がお客様に受け入れられ始めたことによると考えております。

この「快適・信頼の新しい走り」と地球環境との融合の「新しい走り」とは、昨年フルモデルチェンジいたしました新型インプレッサ以降に採用した「SI (SUBARU Intelligent) -シャーシ」コンセプトに基づくボディやサスペンションが生み出すもので、しなやかで自然と一体となるような懐の深い走りを実現しています。

「地球環境との融合」という点では、まず量産車におい



スバルエクシーガ

て、カテゴリトップレベルの燃費性能、排ガス性能を実現しております。また、今年3月に乗用車向けとして世界初となるボクサー（水平対向）ディーゼルエンジンを搭載したレガシィ・アウトバックを欧州市場で発売いたしました。また10月には、パリ・モーターショーでインプレッサ、フォレスターについても、ボクサーディーゼルエンジンの搭載車を発表いたしました。燃焼効率のよいディーゼルエンジンに注目し、振動・騒音が多いというディーゼルエンジンの弱点を、振動が少なく静粛性に優れた水平対向エンジンの特徴を最大限に活かして克服し、コンパクトで、かつ静かなエンジンに仕上げました。



シンメトリカルAWDレイアウト



スバルボクサーディーゼル

さらに、今後環境対策の大きな柱のひとつになると想定される電気自動車（EV）につきましても、実用テストを行ってきた「R1e」の次のステップとして、スバルの軽乗用車の中心車種となるステラをベースとした「プラグインステラコンセプト」を発表、近い将来の市場導入を検討しています。

走り、環境に加え、安全面については、弊社独創の水平対向シンメトリカルAWDレイアウトをハードに据え、「走

りを極めれば安全になる」という開発コンセプトからくる予防安全性能の向上にこだわり続けております。また、衝突安全性能面についても、「新型インプレッサ」が、日本の自動車事故対策機構の実施した平成19年度自動車アセスメントで衝突安全性能、歩行者頭部保護性能評価において、最高評価でグランプリを獲得するなど高いレベルにあり、今後も一層磨いてまいります。

さらに、スバルのクルマの新しい可能性を追求するために、トヨタ自動車との提携関係に基づき、水平対向エンジンを搭載した小型FRスポーティ車の共同開発にも着手いたしました。

こうした取り組みは、これまで以上にスバルの持つ強みを伸ばしていくことにほかなりません。私たちは、経営資源をスバルが得意とする水平対向エンジンを搭載した登録車の開発・拡販に集中させ、「快適・信頼の新しい走り」と地球環境との融合の車造りを行ない、一人でも多くのお客様の豊かなライフスタイルづくりに貢献してまいります。

スバルの次の50年に、ぜひご期待ください。



スバルプラグインステラコンセプト